水を仕事にする魅力、やりがい

異分野の経験で志す世界へ

三機工業
環境システム事業部
技術1部　技術1課
東森　敦嗣さん

■下水道への貢献を志し

大学の研究室では嫌気性消化など下水道関連の研究をしていました。就職活動時には水処理に関する仕事を志望し、当社で活躍されているOBがいると聞いたことと、在籍していた研究室と共同研究していたことが入社の契機です。

今年で入社11年目になります。最初の5年間は建築設備の事業部に配属されました。現場担当として病院や製薬工場、研究所などの空調や衛生設備の施工に携わり、主に配管やダクトなど天井内の機械設備を担当しました。その後、希望が叶い環境システム事業部に異動することができ、5年間は設計部署で装置やプラントの設計をしていました。現在は都内の現場で安全管理や施工の品質管理を担当しています。

■他部署の経験を生かして

現在は建築設備事業で培った配管などの経験や知識が、安全管理の業務で非常に生きていると感じています。建築では配管のラインを止められない場合に凍結してから施工する手法があるのですが、環境システム事業の現場でこの手法を提案し採用されたことがありました。これまでの経験が生きた瞬間です。

建築・環境に共通して、作ったものが完成した時の達成感は大きなやりがいになりました。今後は、業界全体で進むダウンサイジング化に対して、自分が積み重ねた技術や設計で、それらを実現する機器を開発し、上下水道業界へ貢献することが目標です。

■仕事と生活のメリハリ

社内の労働環境は以前と比べて改善し、残業時間も減っています。自分の時間も確保しやすく、安定した仕事をさせていただいています。休日は趣味のゴルフなどでリフレッシュしており、ワーク・ライフ・バランスは充実しています。体を動かすのことが好きなので、スポーツを通してメリハリのついた生活を送れています。

■学んだ世界へ

学生の皆さんにはしっかりと自分の研究活動を極めてほしいと思います。水の研究をした人が、違う世界に行ってしまうことを何度か見たのですが、もったいないなと感じています。極めたことはどこかで必ず力になります。

私自身、入社当初は希望と異なる部署への配属で、最初こそ戸惑いましたが、たくさんのことを経験しました。異動で希望の部署に配属され、今は学んだことを生かしています。希望と異なる職種であっても、そこで得た経験はやりたいことをする際に役立ちます。

ぜひ自分が学んだ経験を生かし、望む世界へチャレンジしてほしいですね。

材料から多様に広がる研究

栗本鐵工所
パイプシステム事業部
研究部　開発グループ
軒野　雅也さん

■材料研究から業界に

大学院では材料分野を専攻し、医療用金属を研究していました。ステント（動脈等の血管を拡張するために用いられる小型の医療器具）の材料であるコバルトの強度を上げることで、ステント自体を小型化・薄型化するという研究テーマでした。研究テーマ自体は今の仕事と直接関係はありませんが、材料はあらゆる分野における最初の検討要素ですので、上水道・下水道とも無縁ではありません。

栗本鐵工所は、研究室の先輩に就職実績があったことから知っていました。1日インターンシップにウェブ参加すると、水に対して熱い思いを持っている先輩社員が多いという雰囲気が画面を通じて伝わってきました。私自身は上水道・下水道に特別強い思い入れがあったわけではありませんが、専門知識を生かして社会に貢献したいという思いがありました。今思えば、大阪府北部地震で知人が断水を経験したのが、業界を意識する一つのきっかけになっていたかもしれません。

■オプション開発に奮闘

開発グループでは主に上水道の布設工事に関する新しい工法の開発や上水道に関連する新製品の開発を担当しており、私はデジタルデバイス等を用いた業務の効率化の開発を受け持っています。

現在は主に既存製品である「自動排水装置」のオプション製品の開発や改良に携わっています。上水道管路の末端に位置する箇所などでは、水道水の管内の滞留時間が長くなり、残留塩素濃度が低下してしまいます。水質を維持するためには、定期的に水道管から排水を行う必要があるのですが、この排水作業を自動化するのが自動排水装置なのです。

近年、この製品のオプションとして、水没対策用の防水ケースの開発に携わりました。長期の水没により故障の可能性がある電磁弁を保護するために、ケースを上から被せるシンプルな構造となっています。コストを低く抑えつつ、防水性も両立することができ、開発者としても満足しています。

■開かれた研究

研究職といえば、部屋に閉じこもって一人で没頭するものというイメージがあるかもしれませんが、そうではありません。私は入社3年目ですが、社内外の研究発表会において研究成果のプレゼンに立ったこともあるほか、最近では大学や異業種の企業と連携した新技術の共同開発にも取り組んでいます。研究発表会ではいろいろな質問やコメントを受けることで励みになりますし、共同研究では自分や社内だけでは気付かない視点での指摘等を受けることで、良い刺激を受けています。

就活中の皆さんには、数ある企業の中から一つだけを選ぶということにたくさん悩んでほしいとも思いますし、自分が納得できるような選択をしてほしいとも思っています。

若い社員の挑戦を後押ししてくれる社風もありますので、その選択肢の中に当社を入れていただければ嬉しいですね。

経験と知識を反映した提案を

三水コンサルタント
東日本事業本部　東日本施設事業部
施設第二部
福崎　流輝さん

■環境や水質に興味

高校時代に醸造、特にお酒の味が軟水や硬水といった水質に左右されることに興味を持ちました。大学（大阪工業大学）では環境工学科に所属して水質計測などを学びましたが、研究室の先輩に当社のOBがおり、貴重な話を頂戴し自分の知識や興味を生かせるのではないかと考えて入社しました。現在3年目です。今は施設事業部で電気設備を担当し、下水処理場やポンプ場への電源供給設備や監視・制御設備の設計に従事しています。

■失敗を次に生かす

ある県の流域下水道事務所の受変電設備の更新を任されたのですが、要領がうまくつかめず工程遅れなどが発生してしまいました。先輩のフォローもあり、何とか工期内に間に合わせることができましたが、先輩からは「経験は何より大事。最初のうちなら躓いても大丈夫」と大目に見てもらえました。一から自分から手掛けられたことは勉強になりましたし、進捗管理の方法も改めて見直すことができました。言われたことは忘れず、教訓として次に生かすことを現在も心掛けています。

■ありがとうの声を

直近の執行業務では仙台市の自家発受変電設備の更新、山形県や軽井沢町のストックマネジメント計画の支援などを手掛けています。

納品後、お客さまに「ありがとう」といってもらえることに最高のやりがいを感じますし、ストマネ計画であれば施設にある機器がどのような役割を果たしているのか、全体像が立ち上がってくる瞬間が嬉しいですね。

電気設備一つとっても現在は浸水対策や耐水化など、将来の更新期を見据えた設備設計が求められます。今の私は各種基準や前例等に基づいて解決策を提案しているところですが、ゆくゆくは自分の考えや知識を施設設計に反映させ、少しでもお客さまの役に立てたらと考えています。また、これまでは下水道業務の詳細設計などを行ってきましたが、上下水道一体化に伴い水道の仕事も増えてきており、故障時の安全維持面など水道より一層厳しい面もありますが、新しいことにチャレンジできることは楽しみでもあります。

現在所属する部署は若い人が多く、風通しの良さを感じています。失敗してもフォローしていただける先輩に今は甘えて、若手部員と切削琢磨しながら今後はリーダーシップを持って会社を引っ張っていけるようなエンジニアになります。

水と環境の創生コンサルタント
NSS 日本水工設計

ずっともっと
水と
ともに。

会社説明会
1day仕事体験 予約受付中!
←エントリーはこちら

（公社）全国上下水道コンサルタント協会会員
日本水工設計株式会社
代表取締役社長　細洞　克己
本社:〒108-0073 東京都港区三田3-5-19
TEL.03-3534-5511　FAX.03-3534-5534
https://www.n-suiko.co.jp

水と環境の Consulting & Software
NJS

公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会会員
株式会社NJS
代表取締役社長　村上 雅亮
〒108-0014
東京都港区芝 5-34-2　ミタマチテラス 6 階
TEL：03-6324-4355（代表）　FAX：03-6324-4356
URL：https://www.njs.co.jp
ホームページ　X　YouTube　note